

あとがき

後藤齊先生は、東北大学大学院文学研究科を2021年3月末日をもって定年退官となります。まず、先生の退任記念論文集に論文を寄せてくださった皆さまに心から感謝申し上げます。先生のもとから巣立ち、いま言語学の様々な分野で活躍なさっている方々の最新の論文が読めることをとても嬉しく思います。そして私自身も論文を載せていただき、さらにあとがきまで書かせていただくことをたいへん光栄に思っております。

今年はコロナ19のため、退官式が最終講義と兼ねて行われることになりました。今年3月には日本に行き、先生の退官式に出席することを何年も前から楽しみにしていただけに残念でなりません。4月からは、研究室を訪問しても先生にお目にかかれないという現実にも、実感が伴わず、受け入れることができないでいます。

先生に初めてお目にかかったのは、2001年10月1日のことでした。東北大学の研究生として研究を始めたばかりで、テーマについて迷う私に、先生は次のような話をしてくださいました。「感情の複合動詞の語彙例が一つでもあるならば、研究する価値があるので頑張ってください」と。この言葉が新しい分野に取り組む活力の源となり、自信となって、最終的に博士論文を完成するに至りました。現在私はソウルにある大学で教授として勤務しております。先生は語彙、文法、語用論を研究する弟子達を情熱的に指導してくださることはもちろん、留学生の悩みやトラブルに関してきめ細かく面倒を見てくださいました。先生から受けた大きな愛情を、いま私は教え子たちに注ぎ、やりがいを感じています。

研究室で仲間たちと韓国料理を作った時にも先生は遊びにくれて、料理に関する説明をしてくださいました。エスペラント学会がソウルで開催された時は、ソウル市内を先生と歩きながら研究の話、そして研究以外の様々な話をしました。先生と過ごした時間が今脳裏によみがえります。

東北大学に留学していたころ、テレビでよく流れていたCMのキャッチコピーが忘れられません。

「モノより思い出」

車のCMだったと思います。このキャッチコピーのように、留学時代の思い出が今の私の宝物です。先生や研究室の仲間と交わした論文の話、生活のあらゆる場面、今もよく思い出します。留学を終えて韓国に帰国する直前に、たくさん写真を撮りました。研究室のあらゆる場所も余さず写真に収め、韓国に持って帰ってきました。これらの写真は今も私のPCのフォルダーに大切に保存してあります。先生のもとで過ごした留学時代は、私の人生における貴重な1ページです。

後藤先生、これからもお元気で、たまには弟子たちの職場を訪ねてきてください。そして、世界中の色々な場所を観光され一日一日楽しく過ごしてください。韓国にいらして、慶州と一緒に旅行できる日も楽しみにしております。

お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。これからもずっと私たちの先生で居続けてくださいますよう、お願いいたします。

(宋 殷美)